

## 勤労者のボランティアに関する意識調査 - ダイジェスト版 -

### 【調査目的と調査データ】

本調査は今後のボランティア活動の推進に役立てることを目的とし、徳島県内に居住する勤労者（現役）であり主に60歳未満の者約3,000名を対象に行った。調査期間は平成17年10月21日～11月20日、有効回収数は1,671、回収率55.7%であった。

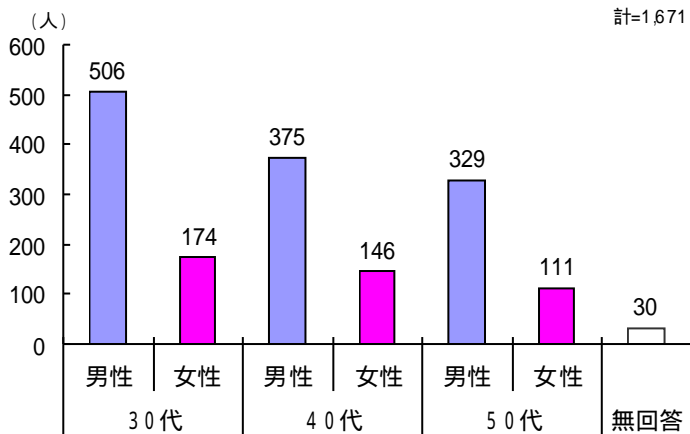
### 【数値の見方】

一部の設問では回答票数・無回答者数を考慮し100%に再換算してある。また回答語群も簡略化してあるため本報告書の集計結果とは異なる場合がある。なお、P\_\_とあるのは本報告書の該当ページ数。

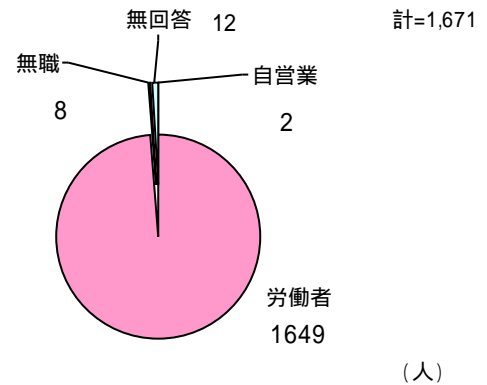
## 基本属性

P3,P6

### 問1、問2 性別と年齢は？



### 問4 職業は？



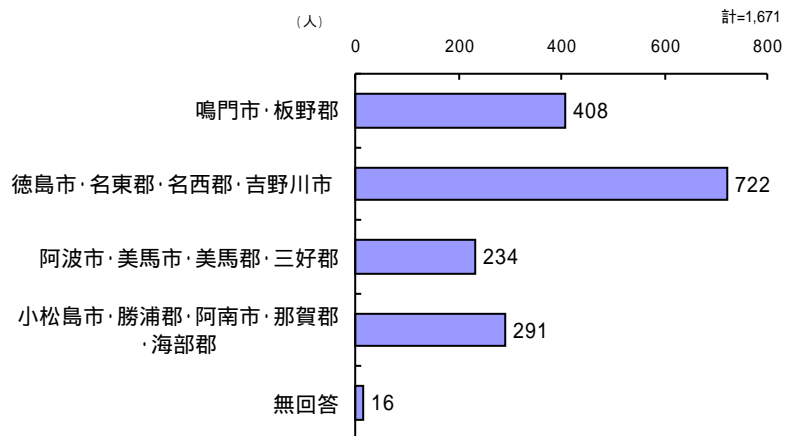
P4

被用労働者を主な対象としたため男性比率が高くなった。

職業別では自営業者2人、無職8人の他は、すべて労働者。

地域的な偏りはあるが、分布としては県下全域にわたった。

### 問3 居住地は？

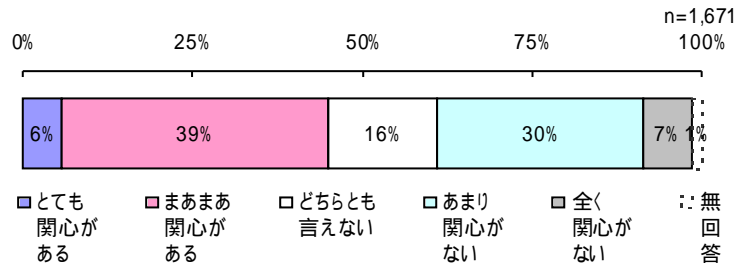


## ボランティア活動に対する関心度・参加の有無など

P7

### 問5 ボランティアへの関心度は？

ボランティアに関心のある方は、「とても関心がある」と「まあまあ関心がある」合わせて 45%、逆に「あまり関心がない」と「全く関心がない」の合計は 37%。

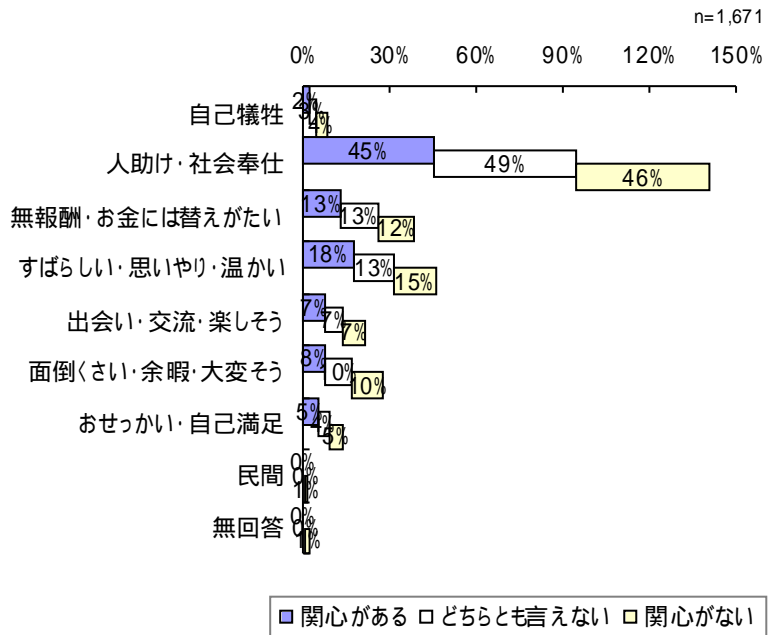


P9

**問6** ボランティアのイメージは？

前回行った『シニア人生(中高年～高齢期)多様な働き方と生きがい』アンケート調査では、ボランティア活動に対する一定の理解はあるものの、自身の参加については消極的という結果が得られた。

今回の調査ではその結果を踏まえ、各人のボランティア観を尋ねてみた。「人助け・社会奉仕」「無報酬・お金には替えがたい」「すばらしい・思いやり・温かい」など、ボランティアの持つ本来の良好なイメージに回答が集まった。



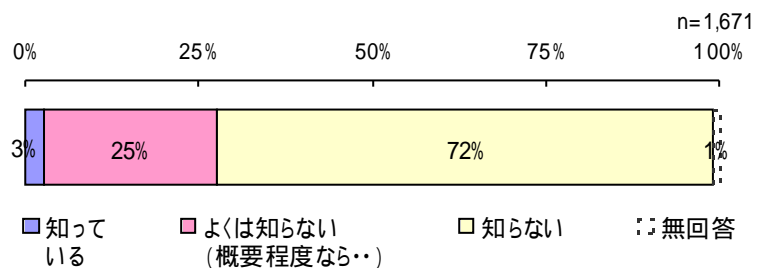
『シニア人生(中高年～高齢期)多様な働き方と生きがい』アンケート調査(H17年2月調査、40歳から60歳までの徳島県内居住者対象、有効回収数 2,261)

P11

**問7** “コミュニティ・ビジネス“について？

地域のボランティア活動団体はその運営において財政的な問題のため事業継続が困難となる場合が多々ある。コミュニティビジネスとは、そうした問題を解決するため、運営にビジネスの手法を取り入れたものであり、全国の各地域で様々なビジネスモデルが試みられている。

しかし一般の認知度はまだ低く、本調査では「知っている」「概要程度なら知っている」の合計で28%という結果となった。



P12

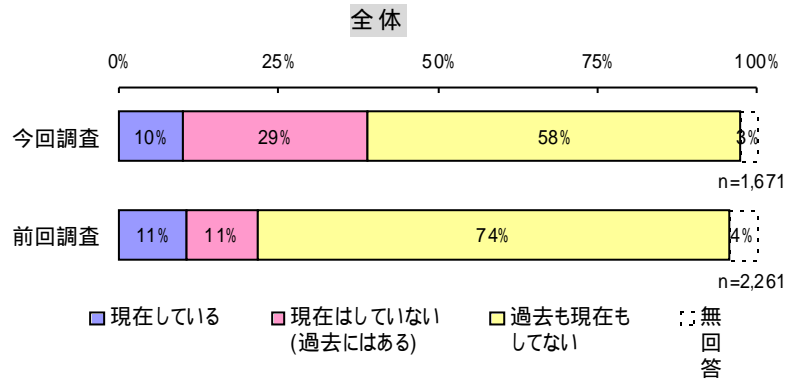
**問8** ボランティアの経験は？

ボランティアに関わったことがある人は「現在している」「現在はしていない(過去にはある)」の合計で39%、全くの未経験者は58%となっている。全体の参加率では前回調査より17%上昇している。

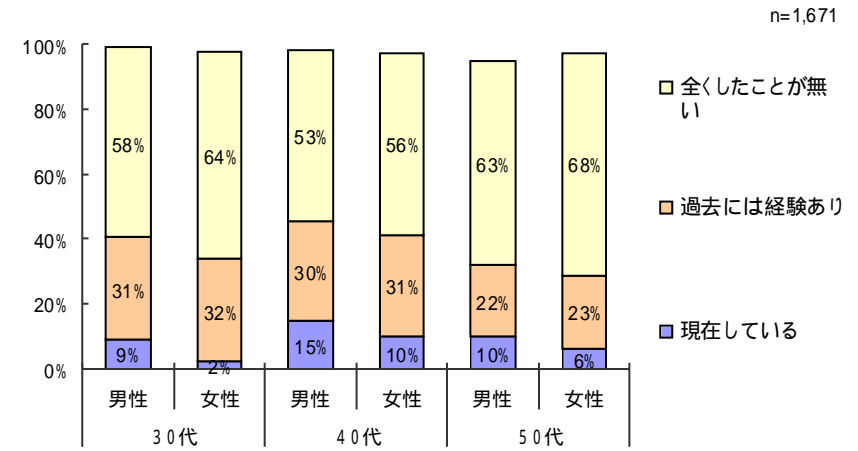
参考として全国調査例を挙げると、『勤労者マルチライフ支援センター』の調査では、「現在している」「現在はしていない(過去にはある)」の合計割合は76%。

男女別では男性、年齢別では40代のボランティア参加率が高い。これは前回調査の結果と同傾向である。

(財)さわやか福祉財団『勤労者マルチライフ支援センター』(全国の同事業のセミナー・講習参加者対象、H17年調査、有効回収数872)



男女・年齢別構成比

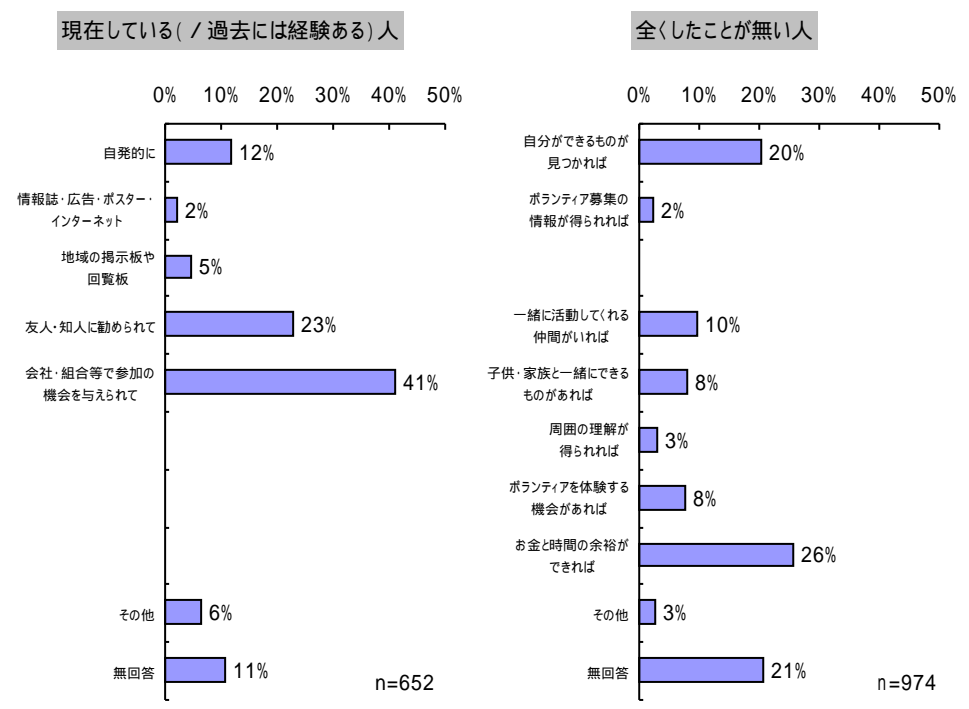


ボランティア活動を始めた( / 終えた)契機・理由など

P14, P23

問9、問13 ボランティアを始めたきっかけは( / どのようなきっかけがあれば始めますか) ?

ボランティア活動を始めたきっかけは、「会社・組合等で参加の機会を与えられて」が41%で最も多い。ボランティア未経験者に対しては、どのようなきっかけがあれば始めたいか聞いた。「お金と時間の余裕ができれば始めたい」26%と「自分ができる内容のものが見つかれば始めたい」20%が多い。

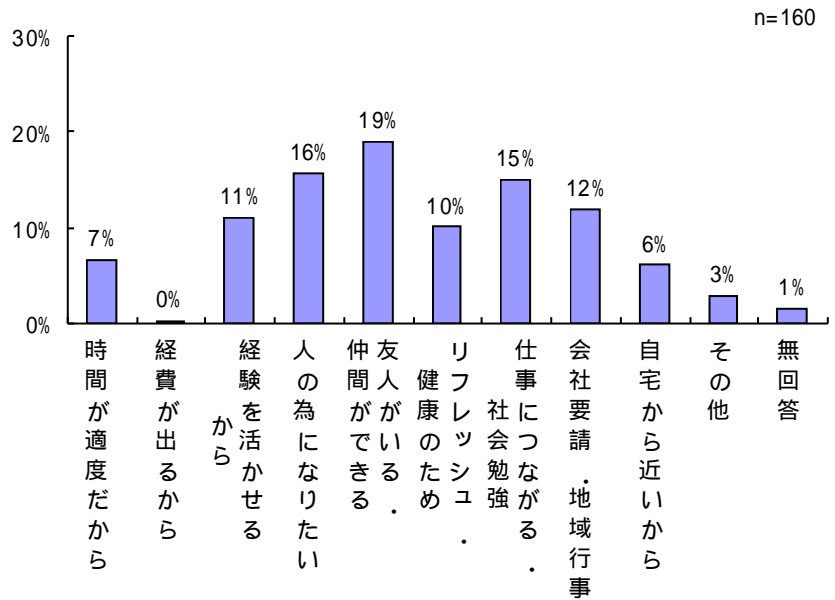


[その他] ▶PTA 活動の一環として、▶ボーイスカウト活動、▶学校行事の一環、▶高校のときのクラブ活動、▶阪神淡路大震災、▶工作上、▶子の学校の関係、etc...

**問10** ボランティアをしている( / していた)理由は？

現在している( / 過去にはある)人対象。「友人がいる・仲間が出来る」が 19%、以下「人の為になりたい」16%、「仕事につながる・社会勉強」15%の順となっている。

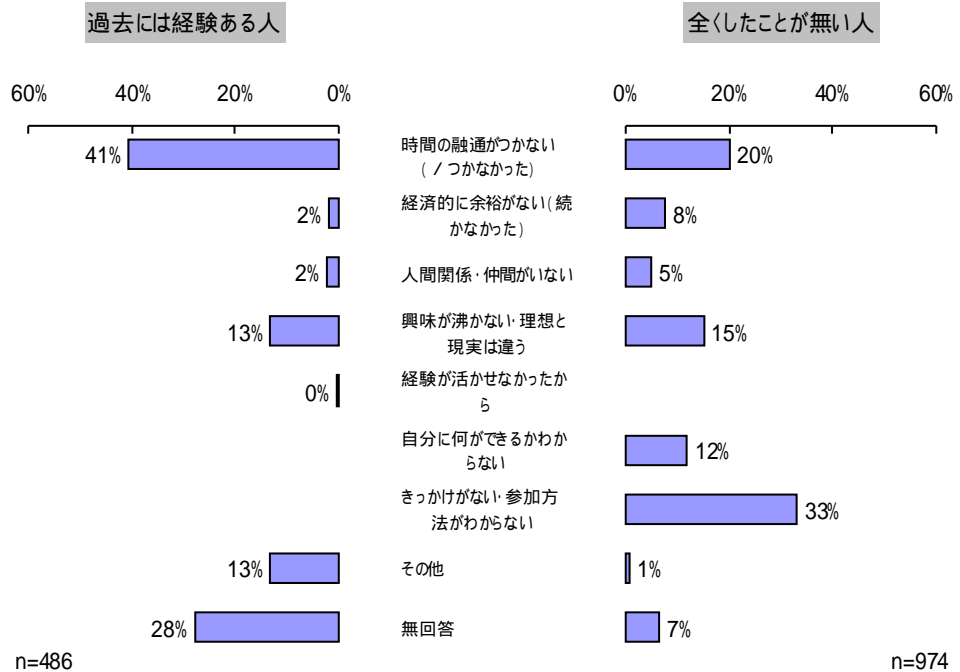
[その他] ▶後継者がいないから、etc..



**問11**、**問12** ボランティアに参加していない( / しなかった)理由は？

活動を継続できなかった理由は「時間の融通がつかない(つかなかった)」、「興味が湧かない・自分に合わなかった・理想と現実が違う」が多い。

ボランティアを全くしたことが無い人は、「きっかけがない・参加方法がわからない」からを最大の理由として挙げている。



具体的な活動方法・内容など

**問14** 活動分野は？

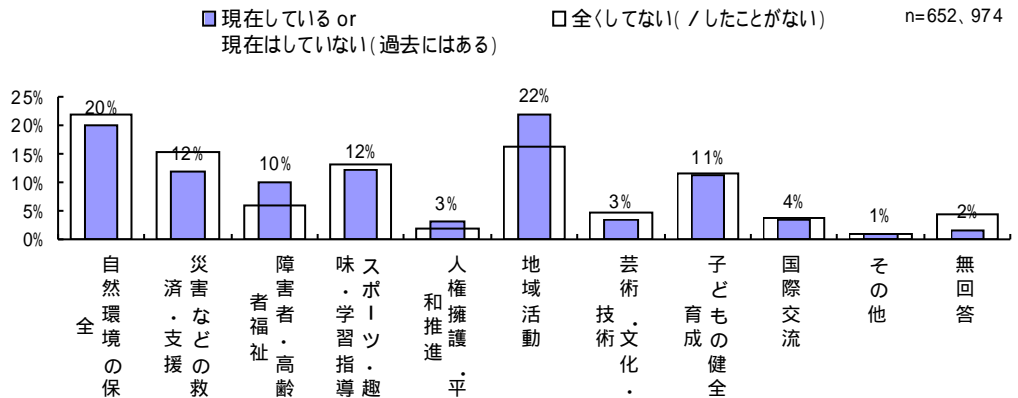
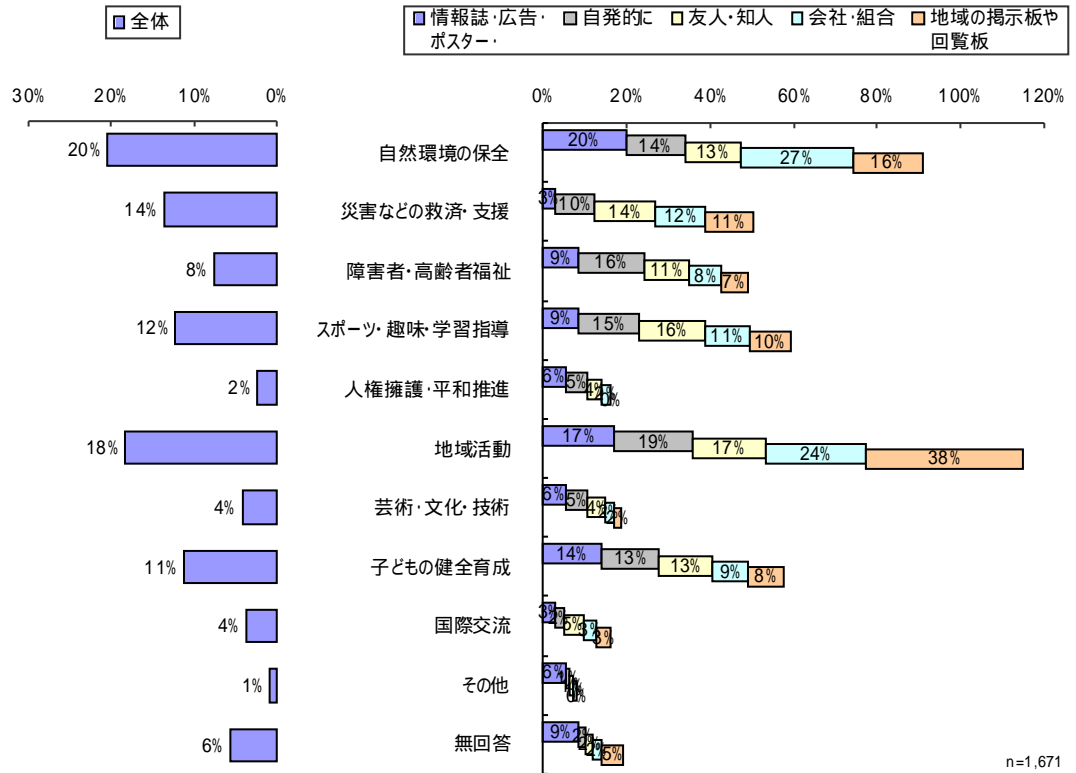
実際に従事している( / していた) 活動分野・作業内容などを具体的に聞いた( ボランティア未経験者に対しては将来の希望として聞いた)。

「自然環境の保全」「地域活動」が 20%と多い。

ボランティアを始めたきっかけ(問9)から活動分野を見ると、「会社・組合」は「自然環境の保全」や「地域活動」に注力しているのが分かる。

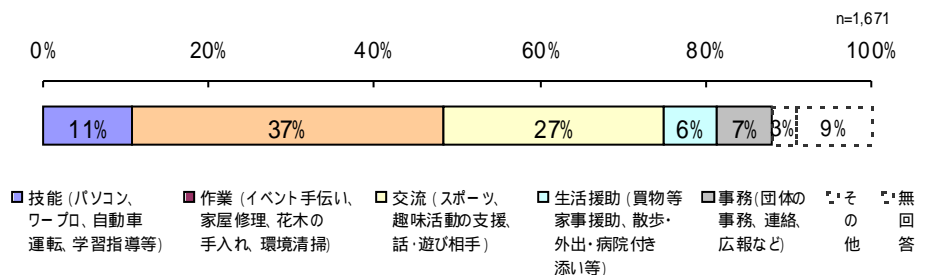
ボランティアを「全くしていない( / したことがない) 人」には将来的な希望を聞いているが、やはり「自然環境の保全」が人気のようだ。

[その他] ▶交通安全、etc..



問15 具体的な作業内容は？

具体的な作業内容としては、「作業関係(イベント手伝い、家屋修理、花木の手入れ、環境清掃)」40%がトップで、「交流支援(スポ



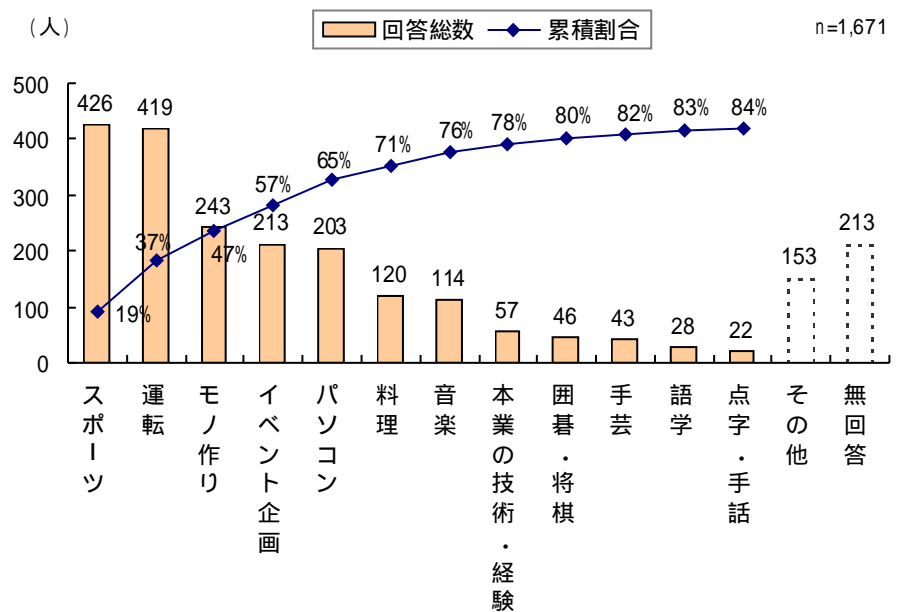
ーツ、趣味活動の支援、話・遊び相手)」28%、「技能活動（パソコン、ワープロ、自動車運転、学習指導等）」12%がこれに続く。

[その他]▶ゴミ拾い、仮設住宅への物資の運搬▶介護・リハビリ、▶傾聴ボランティア、▶消防活動、▶町内の神社のこと、▶募金活動、▶防犯活動、▶野鳥保護のための生態調査、etc..

P31

**問16** 活かしたい( / 活かせた)趣味・特技は？

ボランティア活動をする上で具体的に活かしたい(活かせた)趣味・特技等は何か質問した。全国調査例(「勤労者マルチライフ支援センター」)とほぼ同結果となっている。



[その他]▶茶道、▶お花・園芸、▶歌、▶ゲーム、▶絵手紙、▶写真、▶書道、▶舞踊、▶体力的にハードな作業等、▶家事(清掃・買い物など)、▶農業、▶植林、▶建築、▶機械修理、▶電気工事、▶介護支援、▶看護・カウンセリング、▶保育、▶広報・連絡等作り、▶災害救助、▶司会、▶歴史の知識、▶子供の遊び相手、▶話術、etc..

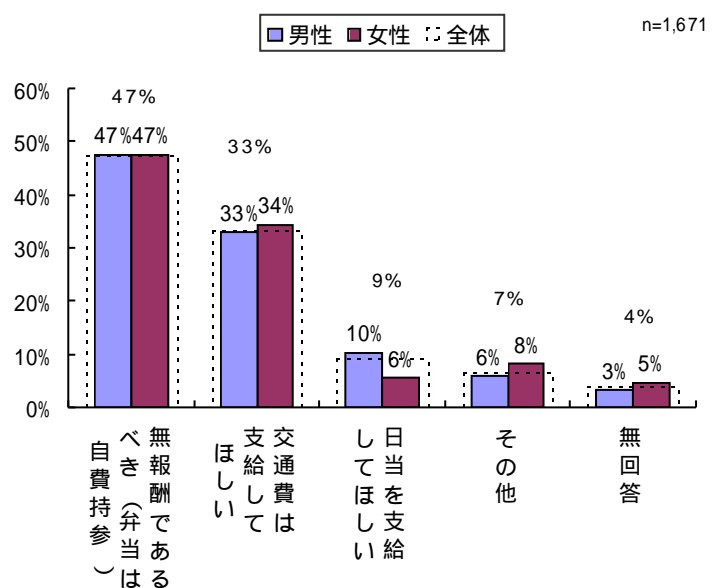
P33

**問17** “報酬と費用”について？

ボランティア活動に携わる際に発生する費用についてどう捉えているか尋ねた。

「無報酬であるべき(弁当は自費持参)」47%に対し、報酬・必要経費の支給を求める「交通費は支給してほしい」「日当を支給してほしい」の合計42%となっている。

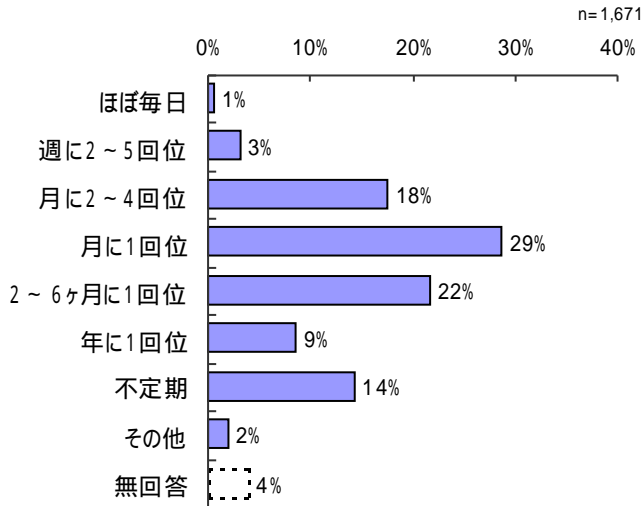
[その他]▶基本的に無報酬(主催団体の方針に任せる)、▶長く続けようとする場合は報酬必要で単発の場合は無報酬でもよい、▶活動内容・状況によってケースバイケース、▶必要経費は出る方が望ましい



(負担が大きいと活動が制限されるから)、▶ケガの時の保証・保険、▶長時間なら食事程度、▶基本的には無報酬だが場合によってはジュースぐらい、▶有給ボランティアでも良いと思う、▶現在のままでよい(交通費、弁当は支給されている)、etc..

P35,P37,P38

**問18** 参加頻度は？

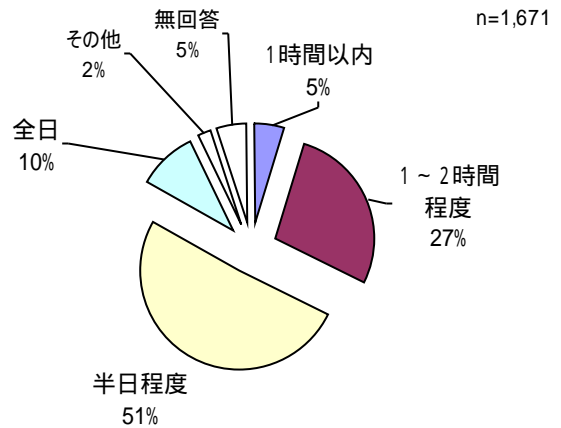


参加頻度は、「不定期」「その他」を除くと、「月に1回位」を中心とした正規分布に似た結果を得た。これも『勤労者マルチライフ支援センター』の全国調査例と同傾向。

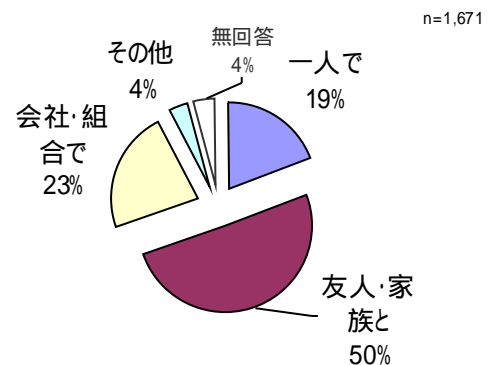
一日の活動時間については、「半日程度」が過半数を占めている。

参加単位については、「友人・家族と」が50%、「会社・組合で」が23%という結果となった。

**問19** 活動時間は？



**問20** 参加単位は？

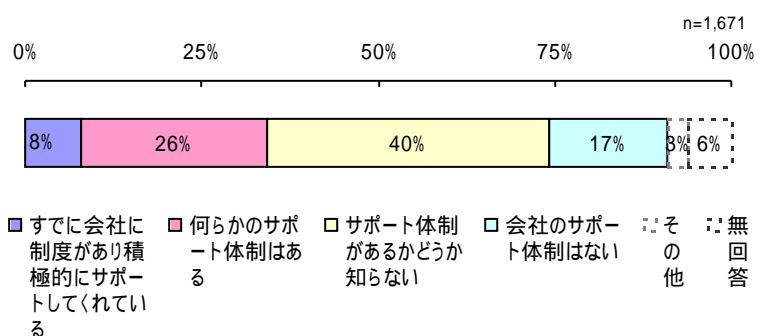


ボランティア活動の支援体制・情報提供など

P40

**問21** 会社のサポートはありますか？

サポート体制がある、すなわち「すでに会社に制度があり積極的にサポートしてくれている」「何らかのサポート体制はある」と回答された方は合計で34%となる。逆に「会社のサポート体制はない」と回答された方は17%となっている。

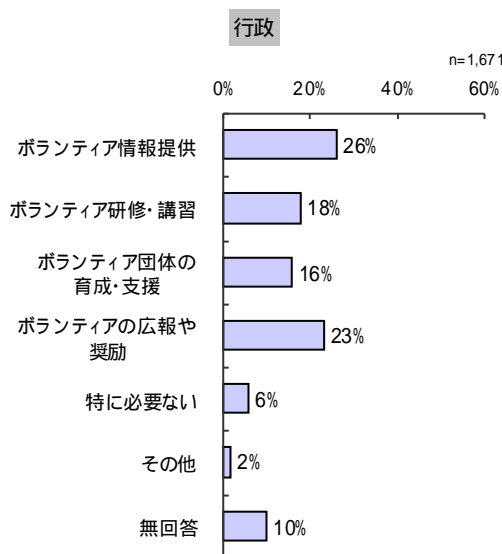
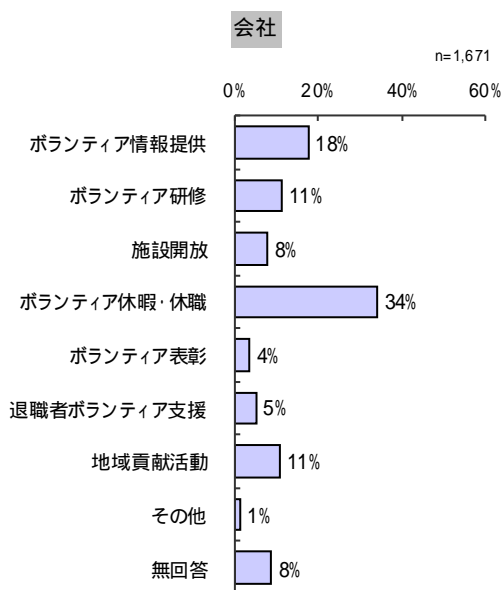


[その他]▶制度はあるが内容が不明、▶制度内容にかなり不満、▶体制がない、etc..

問22、問23 会社と行政の支援内容は？

会社の支援策として望むものとしては、「ボランティア休暇・休職」34%や「ボランティア情報提供」18%などが多い。

行政からの支援としては「ボランティア情報提供」26%「ボランティアの広報や奨励」23%となっている。



[その他] (会社) ▶ 道具等の貸出、etc..

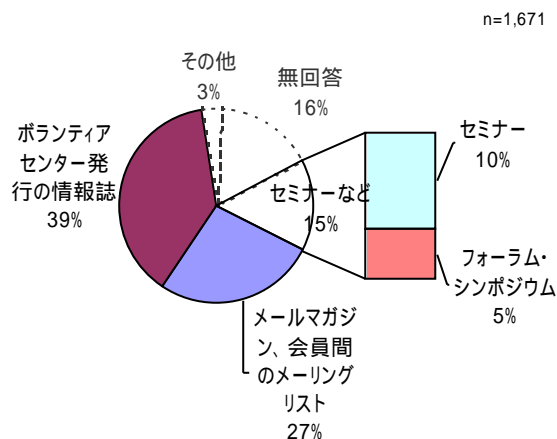
[その他] (行政) ▶ 他市町村との連携、▶ 資金面でのサポート、▶ 資金提供、etc..

問24 ボランティア情報を知るための伝達媒体は？

紙媒体である「ボランティアセンター発行の情報誌」が39%、電子媒体「メールマガジン、会員間のメーリングリスト」は27%であった。

「セミナー」「フォーラム・シンポジウム」もそれぞれ10%、5%と一定のニーズはある。

[その他] ▶ 新聞・TV、▶ ポスター・チラシ、▶ 地域回覧版、▶ 各市町村発行の情報誌、▶ 社内広報、▶ 活動団体の一覧があればよい[どの回答肢も無駄に経費かかると思うので]、etc..



自由ご意見欄

▶ 小学生くらいから学校行事として積極的に取り入れ親しんでほしい ▶ やる気があれば情報が無くても報酬が無くても必ず人は集まる、▶ きっかけづくりが大切かな？ 活動を通して本業の方へ良い影響が生まれるのでは？ ▶ 経費の自己負担では長く活動できない、▶ 社会全体での仕組みの構築が重要、▶ 情報誌等はあらゆるところに置くべき、▶ 有償ボランティア制度を確立すべき、▶ 義務や強制で活動すれば続かないと思う、▶ 行政や組合が定期的にチラシを配るべき、▶ 寄付やボランティアには偽善がある気がする、▶ ボランティア言うは易し行うは難し、etc..